

2019年7月2日

三鍋敏郎

椿坂集落側のトンネル入り口付近に空き地があるので車を停める。本日のコースは、点標「鯉谷」から西に伸び、標高 650m 辺りから北西に伸びる尾根に取り付いて登る。地形図で見ると随分急斜面の連続なので標高差 200m 程度の苦勞を強いられる登りになると覚悟はしていた。

取り付き地点に目印の紐がぶら下がっている。いきなりの急登である。西川さんが果敢に登ってゆく。予想通りの急斜面に息が切れる。イワウチワの群生が見られる自然林に道が切り開かれている。部分的に植林地が交じるがほぼ自然林、ナツツバキの花がたくさん落ちていた。標高 600m 辺りで穏やかな尾根になり一息つける。送電鉄塔を越え鯉谷に近づくとブナが見られるようになる。

鯉谷山頂は樹林に囲まれ展望はない。ブナの美林の道を北上すると明るく切り開かれた鉄塔広場に出る。穏やかな散歩道が続いている。切り開かれた笹地を越えると、再びブナ林の広大な尾根になる。気持ちの良い美林を楽しみながら歩くと、大黒山の東尾根に向かう、良く歩かれた道に合流する。

合流点から山頂は近い。ヤマボウシの白い花を愛でながら進むと山頂に出る。大黒山山頂はブナ林に囲まれて展望は無いが夏山としては涼しくて有り難い。上空をアゲハチョウが優雅に飛んでいるのが見える。

下山は少し引き返した地点から西に向かう。すぐに水場がありトラバース気味に山肌を巻くと南西尾根に乗る。尾根西側斜面のヤマアジサイの紫が美しい。しかし、私事だが、来年度の、わかくさ作業所の「山歩きカレンダー」の作成が決まった。そのための版画数枚を短期間で作成した疲れのせい、読図に力がいらず緊張感が欠落していた。藤井さんに声を掛けられ、下山は別尾根に行く事にハタと気づく。

標高 750m 付近の尾根の分岐点は判りにくい。微かな踏み跡を追いかけると目的の南西尾根が見えた。尾根は次第に細くなり一部に灌木帯があるが、尾根が穏やかになると杉の植林帯になり歩きやすくなる。しかし、尾根の末端は断崖絶壁で途方にくれる。何箇所か覗いたがとても降りられる高さではない。諦めて一呼吸し、冷静な気持ちでよく見ると、獣道が藪の中に続いているのが見えた。それを辿り下るとようやく道路に出ることができた。【藪漕ぎは獣に聞け】藪山における行動哲学である。

★メンバー西川・藤井・三鍋 他 1 名 ★コース トンネル入り口 9:43～点標「鯉谷」11:47～合流点 11:26 発 32 大黒山 11:36 発 12:00～間違引返 12:19～下降点 12:21～尾根末端 12:54～旧道 13:10～駐車地 13:23